研究通信
村落社会研究会機関誌
No. 2

「研究通信」への期待

喜多野清一

まず村落社会研究会がいよいよ活動しはじめたことを心からの慶びといたします。

そして研究通信第一号を手にしてそこに明るい親和の気分の満ちていることを非常にうれしく思いました。炉端であぐらをかいて語りあっている気分を感じます。素人の印刷技術の拙いことは蔽えないがこれもかえって村居炉辺の一興だと云っては、アバタもエクボの炎に置しましょうか。けれども私ども学がこだわりなく意見をのべあうことは、今后この会を発展させてゆく上の大切な要件だと思うのです。また委員会も幾つか出来て組織的活動にいよいよ入るところですが、こゝでの討議や決定などの広い公開性と、会員全体への浸透が、また会員の積極的参与と親和のための欠くことの出来ぬ要件だと思います。研究活動とその成果確保のための基礎的な足ごしらえは、実はこういうところにあるのではないでしょうか。誠意に基づく隔意のない相互の科学的検討もこうした礎の上に打ち建てられて効果を発揮すると思います。こういう意味では、この研究通信こそは年報や年次大会と並んで、会の発展にとり甚だ重要な役割を荷っていると云わねばなりません。殊に近来益々研究者の弱きを加えつゝある村落社会研究の分野では、時として問題の整理・連絡を欠き、方法の混乱を生んでいるようにさえ思えます。また各方面の緊密な協力と批判によらねば解決し難い段階に達した問題があるかと思うと、未だまるで手を附けられていない問題もあります。こうした現状を整理し、それに大きい発展の道筋をつけて、わが国の村落社会研究の科学的水準を一歩づつ引上げてゆくことを共同の目標としてゆくには、会員の親和的な協力と善意とをもってする建設的相互批判が絶対に必要であります。「研究通信」はこういう基礎条件をとゝのえる役割を荷っているものとして、私はこれに大きな期待をかけているものです。どしどしお互の問題を出し、研究の進行を語り、希望を述べ、意見を戦わせてゆくようにしたい。アメリカ農村社会学会の機関誌ルーラル・ソシオロジーの創刊号における編輯局の宣言に、本誌は自己の発見をもって本会に寄与しようとする如何なる人にとっても公開されているフォーラムだと云いその高い科学的水準を維持することが編輯局の責任であると云っていますがわれわれは年報と年次大会と、この研究通信とをあわせて、こうしたフォーラムを準備してゆこうではありませんか。（昭和二八・三・二五　九州大）

本部　東京都文京区大塚窪町二四　東京教育大学社会学研究室内
通信部　東京都文京区本富士町一　東京大学文学部社会学研究室内